

平成14年4月21日
原子力安全対策課
(14-14)
<14時00分記者発表>

新型転換炉ふげん発電所の手動による緊急停止について
(冷却材中の放射能濃度の上昇)

このことについて、核燃料サイクル開発機構から下記のとおり連絡を受けた。

記

新型転換炉ふげん発電所は、定格出力で調整運転中の4月17日から、希ガスホールドアップ装置の活性炭吸着塔入口ガスモニタの指示値が上昇し、2ループ(A、B)あるうちAループに装荷されている燃料集合体が漏えいしていると判断されたが、モニタの指示値等が十分に低い値で安定していたため、監視を強化して運転していた。

(平成14年4月18日発表)

しかし、4月21日10時55分頃から希ガスホールドアップ装置の活性炭吸着塔入口ガスモニタが上昇し始め、その後、排気筒ガスモニタの指示値も上昇していることが確認されたため、12時31分、原子炉を手動により緊急停止した。

なお、周辺環境の放射線モニタリングポストの指示値には影響は認められず、放射能による影響はない。

問い合わせ先 内線2354 直通0776(20)0314

平成14年4月21日
原子力安全対策課
(14-14)
<14時00分諸誌>

新型転換炉ふげん発電所の手動による緊急停止について
(冷却材中の放射能濃度の上昇)

訂正・追加 (16時45分)

このことについて、核燃料サイクル開発機構から下記のとおり連絡を受けた。

記

新型転換炉ふげん発電所は、定格出力で調整運転中の4月17日から、希ガスホールドアップ装置の活性炭吸着塔入口ガスモニタの指示値が上昇し、2ループ(A、B)あるうちAループに装荷されている燃料集合体が漏えいしていると判断されたが、モニタの指示値等が十分に低い値で安定していたため、監視を強化して運転していた。

(平成14年4月18日発表)

しかし、4月21日10時55分頃から衛帯蒸気排気配管モニタが上昇し始め、同日11時30分頃、希ガスホールドアップ装置の活性炭吸着塔入口ガスモニタが上昇し始め、その後、排気筒ガスモニタの指示値も上昇していることが確認されたため、12時31分、原子炉を手動により緊急停止した。

なお、周辺環境の放射線モニタリングポストの指示値には影響は認められず、放射能による影響はない。

(平成14年4月21日14時発表済み)

⇒訂正箇所

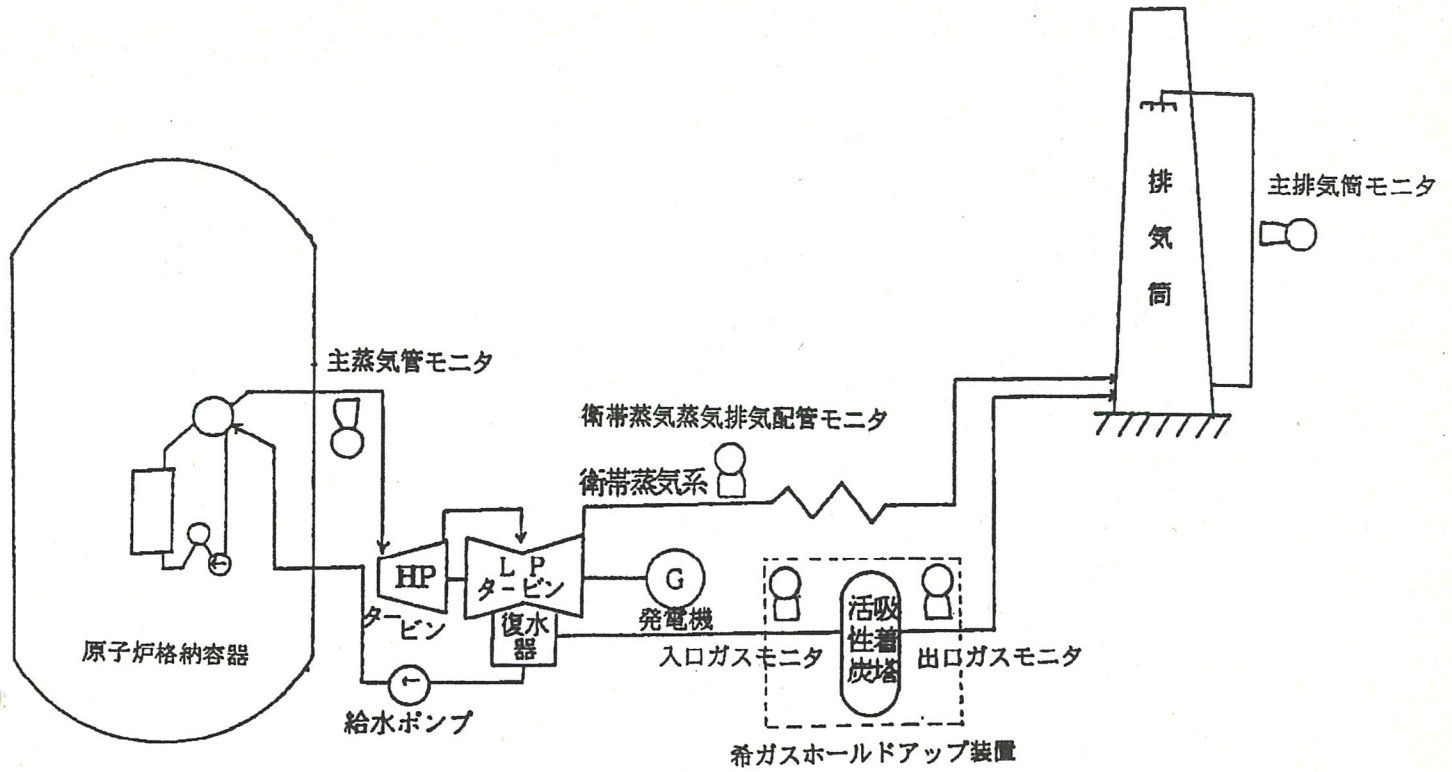
(追加)

現在、冷温停止に向け操作中である。また、排気筒ガスモニタは通常値に戻っており、他のモニタの指示値も低下中である。

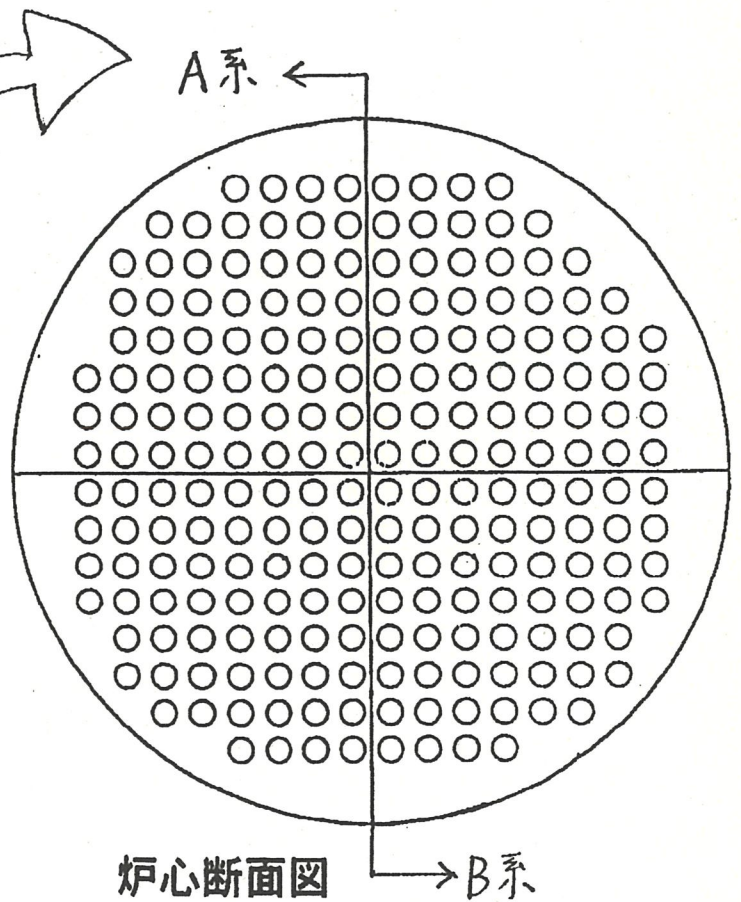
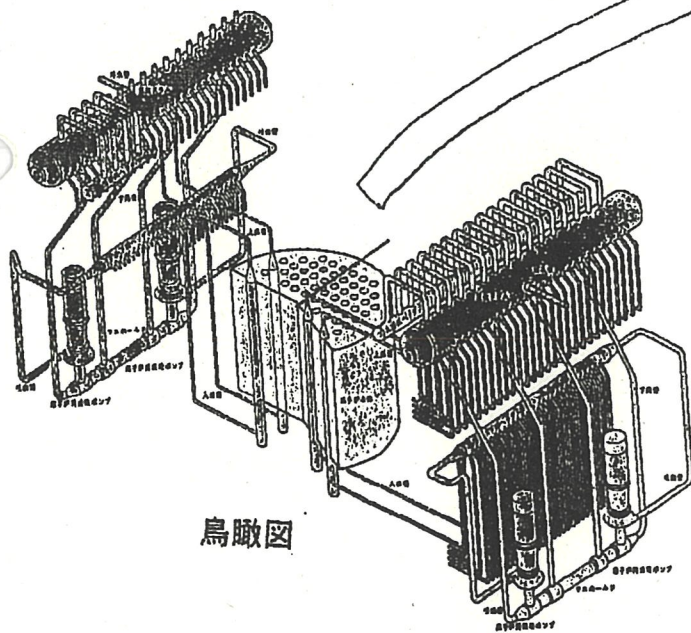
<各モニタの状況>

- ・衛帯蒸気排気配管モニタ
150cps (通常値) → (4月17日変化なし) → 1,800cps (ピーク値)
- ・希ガスホールドアップ装置活性炭吸着塔入口モニタ
10cps (通常値) → 約70cps (4月17日上昇時) → 22,000cps (ピーク値)
- ・希ガスホールドアップ装置活性炭吸着塔出口モニタ
0.8cps (通常値) → 約1cps (4月17日上昇時) → 120cps (ピーク値)
- ・排気筒モニタ
3.6cps (通常値) → (4月17日変化なし) → 13cps (ピーク値)

問い合わせ先
内線2354 直通0776(20)0314



系統概略図



	A系	B系	合計
MOX燃料	47体	47体	94体
UO ₂ 燃料	63体	63体	126体
特殊燃料	2体	2体	4体
合計	112体	112体	224体